

第2期計画に向けた課題（案）について

□PDCAの推進にあたって

資料4-1の委員会指摘事項について、4つの視点からのとりまとめはよく整理されており理解しやすく、例えば目標・指標の明確化→事業実施・モニタリング→情報発信と繋がるものでPDCAのサイクルに即したものと言える。このようなサイクルに地域住民が参画・協働することは、事業終了後における効果の継続的検証や次のステップの事業展開の必要性を発信するのに寄与する。

□第2期計画の方向性について

資料4-3には第1期計画期間における分野ごとの効果と課題がまとめられているが、その前段として、この期間において目標に影響を及ぼしたであろう変化、たとえば琵琶湖を取り巻く自然・人工的環境、住民意識、法的整備、技術革新など、背景としての変化を整理してはどうか。そのような大きな変化の枠組みの中で各分野の事業などが展開されたことを示すのが良いのではないか。

また、第2期計画を議論する際にも、今後10-20年間で起こる背景の変化をある程度予測しながら、計画の方向性を検討することが望まれる。

□琵琶湖の取り組みを世界に広げる

琵琶湖の総合保全で培った施策・技術・地域連携等の成果は国内に留まらず広く海外に発信していくことも求められている。環境保全の要素技術に限らず、事業における目標の設定・実施・評価のあり方、統合的な地域の水管理システム、行政・住民を交えた地域ぐるみの取り組みなどをセットとして、「琵琶湖モデル」として位置づけ世界に情報発信し、水環境保全において国際的に貢献することも視野に入れることが望まれる。

以上